

アオサギ観察会

2015年6月19日

ヒナの顔、百変化

4月下旬に孵化してからおよそ50日、ヒナは立派な幼鳥に成鳥しました。早い時期に生まれた幼鳥はもう巣の回りを飛んでいるかもしれませんね。思えば、ふた月前にはまだ卵の中にいたヒナがすでに自らの翼で羽ばたいているわけです。そんな成鳥の早いヒナたちなので、その姿かたちは日一日と変化します。顔付きもみるみる変わっていきます。



孵化直後は短いくちばしが顔と一体化しているといった感じで、目はとろんとしてまだ開ききっていません。頭は御覧のとおり。白い羽毛が爆発しています。このヒナから大人のアオサギを想像するのはちょっと難しいですね。これが3週目にもなるとだいぶアオサギらしくなり、くちばしもかなり鋭くなってきます。ただ、多少ましになったとはいえ寝癖頭はまだそのまま。が、時間が過ぎるのは早いもので、4週5週と経つうち、あっという間にお馴染みのアオサギの顔になっていきます。巣立ち直前になると、色合いと冠羽が無いことを除けばほぼ成鳥と変わりません。くちばしの色が上下でくっきり違っているのが幼鳥の特徴です。



ヒナたちの顔は正面から見るとさらにユニーク。鳥にしては前方についている眼、大きな口、思いのまま逆立てることのできる頭の羽毛、これらが相まって彼らの表情はじつにさまざまに変わります。あどけないヒナが、あるときは異星人に、あるときは小さな恐竜になるのです。

そしていよいよ巣立ちの季節。恐竜の子孫たちが野に放たれる日ももう間もなくです。